銀幕から伝わる人生は楽し

羽鳥 和子

群馬県

東京から新幹線で１時間弱で到着。上州名物、空っ風が迎えてくれた。

羽鳥さんは手話に40年以上関わる大ベテランである。
高崎市手話通訳者連絡会会長、群通研副会長などの要職にある。
20代の頃、退職の挨拶まわりをした際、
全く交流のなかったろうの同僚に挨拶ができず、
紙に書いて渡すことしかできなかったのが、大いに心残りだった。
その後、地元の手話サークルへ入り、それが手話の仕事へとつながっていった。
群馬県認定手話通訳者試験に早々に合格したものの、実力をつける努力は、日々続いた。

早川理事長（群馬県聴覚障害者連盟）とは40年来の旧知の仲（写真上）
堀米サブリーダー（群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ）は、親子ほどの年齢差（写真下）

高崎映画祭は毎年３月～４月に行われ、年々スケールアップしている。
数多くの活動に時間を費やす中、時間を割いて「映画」に没頭する。
仕事前の空き時間に映画をみたら、通訳に集中しきれなかったことから、
「映画は仕事の後」と決めている。「映画は全身で感じるから、頭と体力使うのよね！」。
何事にも真剣さが凄い。映画館「シネマテークたかさき」のメンバーズ会員であり、
毎月発行される上映スケジュールとの調整には、自然にチカラが入る。
映画の魅力は「人が変わり行くことに魅せられること」と言う。
監督、俳優への興味より、登場人物の「心の変化が面白い」。

個人の意見を尊重し笑顔の絶えない群通研 運営メンバー

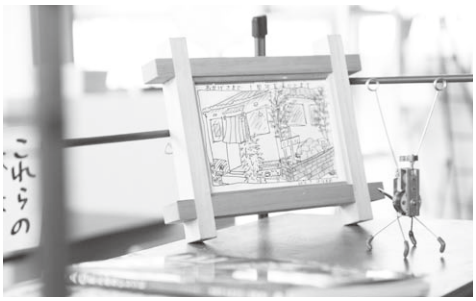
長い通訳人生の中で、辞めたいと思ったこともある。
対人間関係の辛さに手話を辞めようと思った時、
多くのろう者に育てられてきたのに、その特定の人とのことで手話から離れていいのかと悩んだ。
でも続けてきたことでその人との関係も戻った。

高校時代からの仲良し

生命（いのち）の貯蓄体操で健康づくり

ご主人と息子さん

ご結婚も手話と同じほどの年数、長持ちの秘訣は？
「付かず、離れず」「お互いを尊重して…」と笑いながらの即答でした。
夫婦は両輪の関係と言うが、家族や周りの人たちに助けられて手話を続けることができた。
羽鳥さんと手話もまた人生の両輪の関係。仲間とこだわり素材を使ったランチのお店運営の「輪」。
多くの「輪」で人生を謳歌している。



自宅の近くで
こだわりのランチのお店「はなまめ」を
友人と共同運営している

写真/文　松本 博